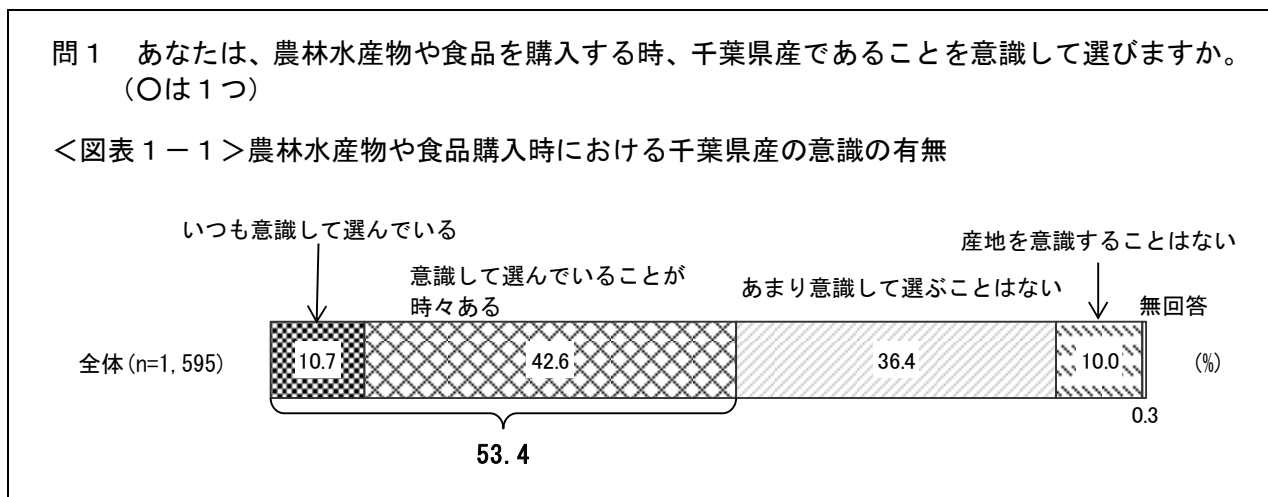


調査の結果 調査結果の解説

1 食育について

(1) 農林水産物や食品購入時における千葉県産の意識の有無

◇『意識して選んでいる（計）』は5割を超える



農林水産物や食品購入時における千葉県産の意識の有無を聞いたところ、「いつも意識して選んでいる」(10.7%)と「意識して選んでいることが時々ある」(42.6%)を合わせた『意識して選んでいる(計)』(53.4%)は5割を超える。

一方、「あまり意識して選ぶことはない」(36.4%)は3割台半ば、「産地を意識することはない」(10.0%)は1割となっている。(図表1-1)

【地域別】

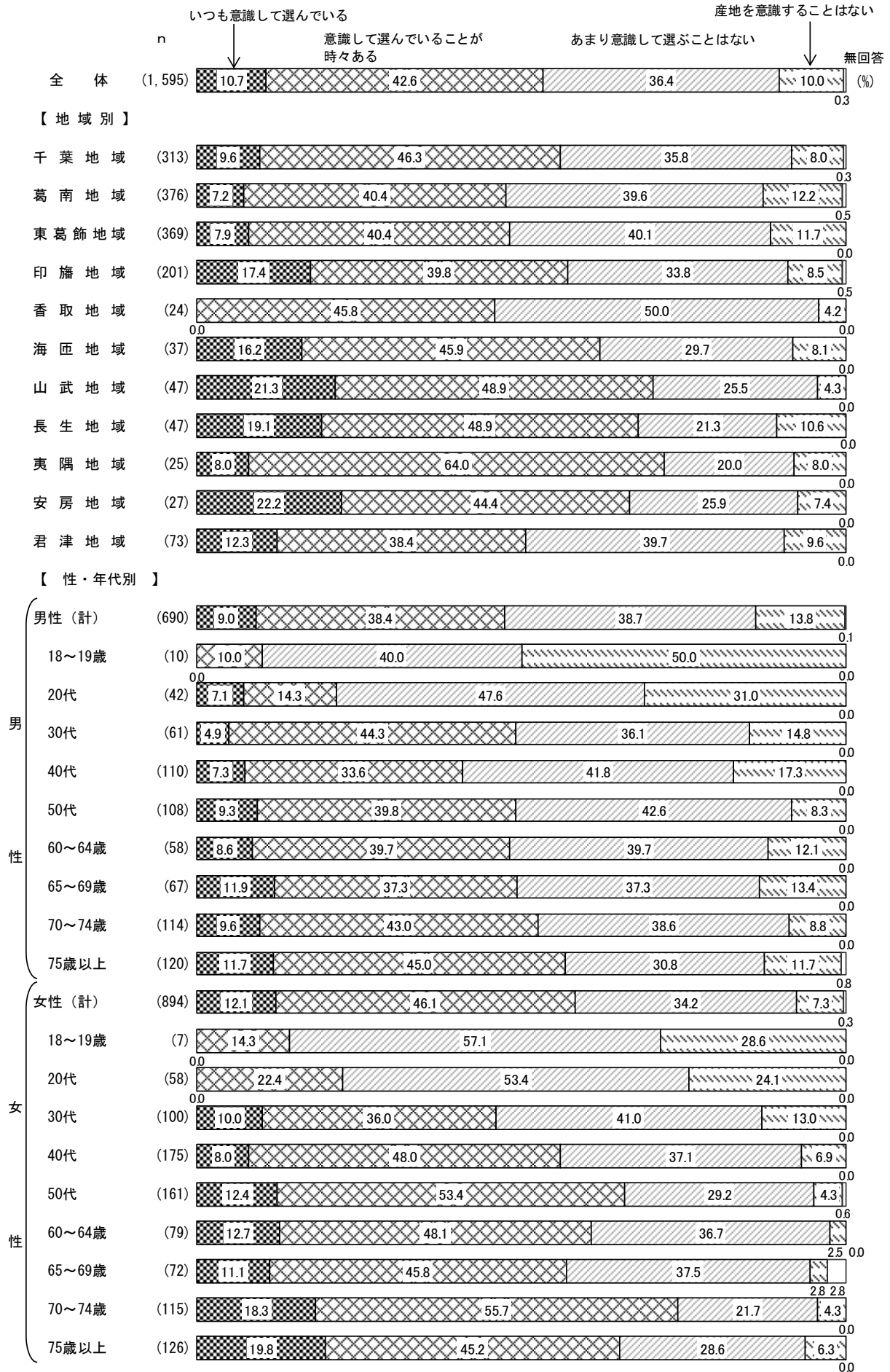
地域別にみると、『意識して選んでいる(計)』は“山武地域”(70.2%)が7割、“長生地域”(68.1%)が約7割で高くなっている。(図表1-2)

【性・年代別】

性・年代別にみると、『意識して選んでいる(計)』は女性の70～74歳(73.9%)が7割台半ば、女性の50代(65.8%)と女性の75歳以上(65.1%)が6割台半ばと高くなっている。

一方、「産地を意識することはない」は男性の20代(31.0%)で3割を超え、女性の20代(24.1%)で2割台半ば、男性の40代(17.3%)で約2割と高くなっている。(図表1-2)

<図表1-2>農林水産物や食品購入時における千葉県産の意識の有無／地域別、性・年代別



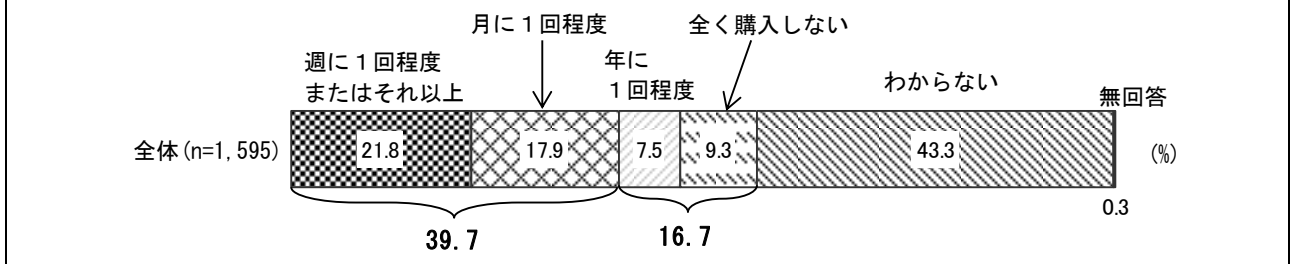
（２）有機農業により生産される農産物の購入頻度

◇『購入している（計）』は約 4 割

問 2 あなたは、どのくらいの頻度で、有機農業※により生産される農産物を購入していますか。（○は 1 つ）

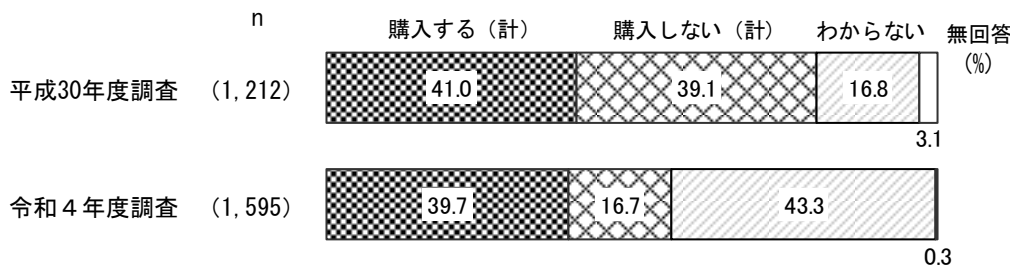
※ 有機農業とは、化学的に合成された肥料や農薬を使用しないこと、遺伝子組み換え技術を利用しないことを基本として、環境への負荷をできるだけ低減した生産方法で行われている農業のことです。

＜図表 1－3＞有機農業により生産される農産物の購入頻度



有機農業により生産される農産物の購入頻度を聞いたところ、「週に 1 回程度またはそれ以上」（21.8%）と「月に 1 回程度」（17.9%）を合わせた『購入している（計）』（39.7%）は約 4 割となっている。一方、「年に 1 回程度」（7.5%）と「全く購入しない」（9.3%）を合わせた『購入しない（計）』（16.7%）は 1 割台半ばとなっている。（図表 1－3）

〔参考〕平成 30 年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



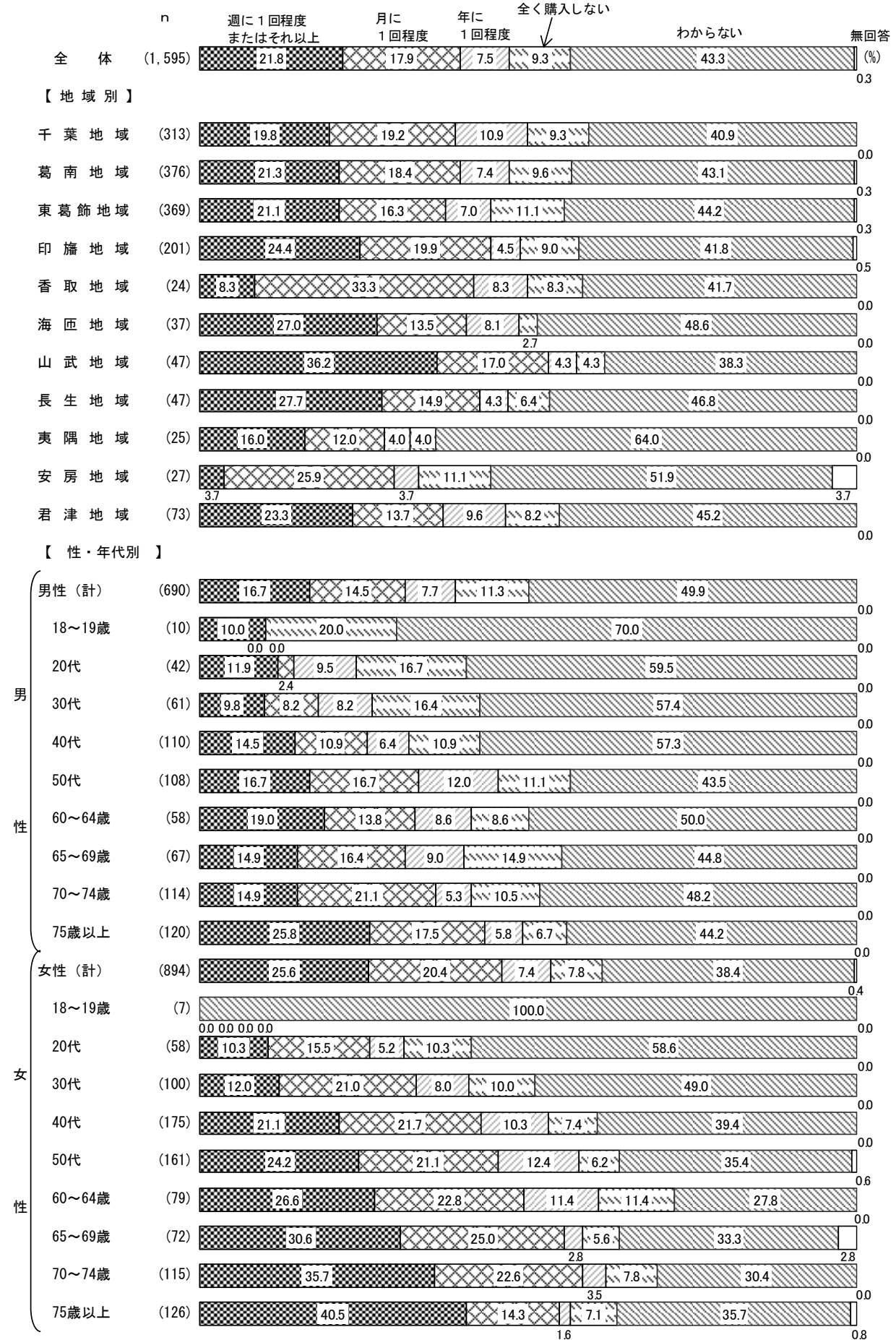
【地域別】

地域別にみると、「週に 1 回程度またはそれ以上」は“山武地域”（36.2%）が 3 割台半ばと高くなっている。（図表 1－4）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『購入している（計）』は女性の 70～74 歳（58.3%）が約 6 割、女性の 65～69 歳（55.6%）と女性の 75 歳以上（54.8%）が 5 割台半ばで高くなっている。（図表 1－4）

<図表1-4>有機農業により生産される農産物の購入頻度／地域別、性・年代別



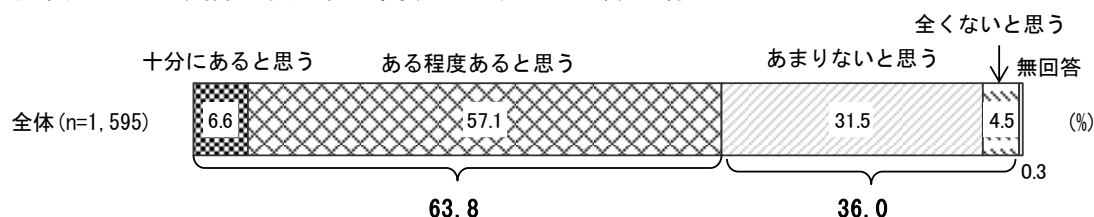
（3）食品の安全性に関する基礎的な知識の有無

◇『あると思う（計）』は6割台半ば

問3 あなたは、安全な食生活を送るための、「食品の安全性に関する基礎的な知識※」があると思いますか。（○は1つ）

※ 食品の安全性に関する基礎的な知識とは、消費期限やアレルギー物質などの表示の理解や、食中毒を防ぐ調理方法、健康食品の正しい知識や選び方等です。

＜図表 1－5＞食品の安全性に関する基礎的な知識の有無



食品の安全性に関する基礎的な知識の有無を聞いたところ、「十分にあると思う」（6.6%）と「ある程度あると思う」（57.1%）を合わせた『あると思う（計）』（63.8%）は6割台半ばとなっている。一方、「あまりないと思う」（31.5%）と「全くないと思う」（4.5%）を合わせた『ないと思う（計）』（36.0%）は3割台半ばとなっている。（図表 1－5）

【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表 1－6）

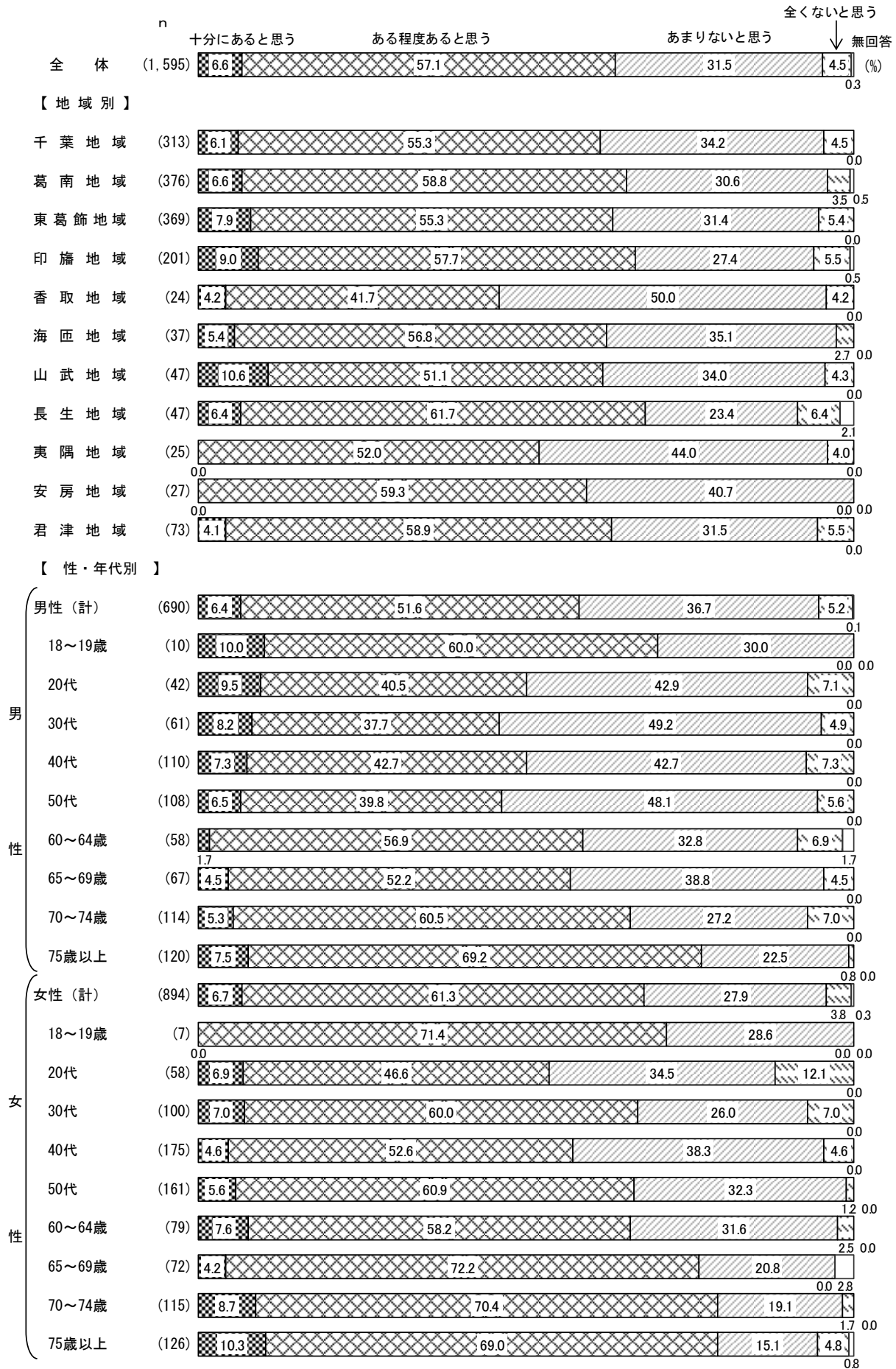
【性・年代別】

性・年代別にみると、『あると思う（計）』は女性の75歳以上（79.4%）と女性の70～74歳（79.1%）が約8割、男性の75歳以上（76.7%）と女性の65～69歳（76.4%）が7割台半ばと高くなっている。

一方、『ないと思う（計）』は男性の30代（54.1%）と男性の50代（53.7%）が5割台半ば、男性の40代（50.0%）が5割、女性の40代（42.9%）が4割を超えて高くなっている。

（図表 1－6）

＜図表1-6＞食品の安全性に関する基礎的な知識の有無／地域別、性・年代別



このほかにも、「食育について」や問 1～問 3 について、ご意見やご提案があれば自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、243人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「食育について」の自由回答（抜粋）

- 千葉県産だと新鮮な事が多いため、野菜などスーパーでみかけると購入している。学校給食にも多くとり入れてほしい。（女性、30代、葛南地域）
- 食物が身体を作っていると思いますので、とても大事なことだと思っています。日本は食料の自給率が低いので心配です。地産地消を大事にすれば生産者にも気持ちが向くと思います。（女性、70～74歳、東葛飾地域）
- 地産地消は県民として大事なことと思います。同じ品物が並んで販売されていれば、当然千葉県産を選ぶ。（男性、75歳以上、印旛地域）
- 鮮度の良い食品は総じて美味しいので、地産地消がもっと進んでほしいと思っています。最近近所のスーパーでも産直コーナーが増えてきています。もっと手軽に鮮度のよいもののお手頃価格で購入できてほしいです。（女性、30代、東葛飾地域）
- 給食で意識して千葉県の農産物を使用しそれを認知させるのはとてもよいと思う。小さいうちから意識させることで大人になってからも地産地消の意識を持ち続けられると思うのでこのまま続けて欲しい。（女性、40代、千葉地域）
- 有機農業による農産物を購入する方が体に良いとは思っていても値段が高かったりするので、なかなか買おうと思えない。食の安全性については、ネットでいろいろ調べる事はできるが、サイトによって言っている事が違ったりして何が正解かがよくわからないことがある。（女性、40代、東葛飾地域）
- 有機農業による農産物であることが一目でわかるように、商品シールの大きさ、統一された目立つ表記などの工夫をして欲しい。（千葉県産農産物も同様）。（男性、65～69歳、印旛地域）
- 食品安全性に関心もてる講習をしてほしいです。私も関心があるので参加したいから。（女性、75歳以上、千葉地域）
- 食品の安全性について十分な知識はないが、生産者や消費期限には注意をしている。（女性、75歳以上、印旛地域）
- 国産や無農薬のものをなるべく選びたいが、価格が高いためなかなか手が届かないことがある。物価の上昇もあり、質より低価格なものを選ぶ機会が増えた。（女性、30代、葛南地域）